生涯学習だより

３月１日号

●編集発行　広報ボランティア会

芳賀の史跡めぐり -4-

井上武士とその生家

～偉大な音楽教育者兼作曲家～

一、井上武士の生誕と音楽への芽生え

井上武士は、明治二十七年八月六日に旧勢多郡芳賀村大字五代（現前橋市五代町）77番地で、漢方医の父隆伯と母きよの間に８人兄姉の末っ子として生まれました。武士の音楽好きは、祖父がとても声が良く小唄などを歌い、また、教えたり、姉たちも歌好きで、いつも家で歌っており、家庭内で自然に音楽への素地が培われたようです。

また、武士自身も手作りの横笛やハーモニカを吹いて遊ぶ音楽に慣れ親しむ子で、小学校の頃には、好きな曲を写譜し、学校のオルガンでその曲を弾いて楽しんでいました。

二、音楽教育者への基礎を培う

武士は、群馬師範学校（現群馬大学教育学部）を卒業し、上川淵尋常高等小学校の訓導になりましたが、更なる向上心に燃え、翌年、東京音楽学校（現東京藝術大学音楽部）甲種師範科に入学し、オルガンを専攻しました。受験にあたっては、教師を勤めながらの生活のため、いつ寝たのかと思われる程の猛勉強の毎日でした。その後、音楽学校を首席で卒業し、総代になります。卒業演奏会では、この曲を弾ければ演奏家として一流と言われていた、バッハ作曲の名曲「パッサカリア・ハ単調」を暗譜で演奏しました。武士は、音楽教育の理論、そして、作曲、演奏の実力を十分に身につけ、音楽教育者の基礎を培いました。

三、音楽教育者への歩みと生涯

音楽学校卒業後、台湾の師範学校、長野師範学校、横浜市指導員（指導主事）を経て、昭和六年九月に東京高等師範の小・中学校の訓導となり、音楽指導にあたりました。その時の授業は実にすばらしく、武士の右に出るものはいないと言われ、たいへんな評判でした。

また、この時期に日本中のあらゆる県に音楽の指導や講演等で出向き、行かない県はないと言われています。まさに、音楽教育指導者として大活躍の時期でありました。武士は生涯で童謡・唱歌、合唱曲等を３００余曲、校歌１４０余曲を作曲していますが、チューリップやうみ、ウグイス、鯉のぼり、菊の花、麦刈り等、名曲と言われる曲のほとんども、この時期に作曲しています。

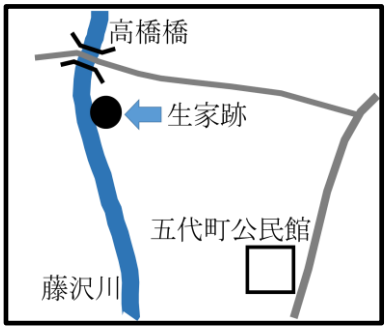
その後、東京高等師範・東京教育大学を退任し、東京藝術大学講師として転任しました。この間に、自己の歩んできた音楽教育を集大成し、井上武士の名を不動のものとしました。主な役職は、日本教育音楽協会長、全日本児童音楽家連盟会長、日本音楽著作権協会監事等。

武士は、近代日本の音楽教育の歴史に残る数多くの足跡を残し、昭和四十九年十一月八日脳卒中のため横浜市の自宅で逝去しました。享年80歳。墓地は善勝寺にあります。

武士の生家跡は、藤沢川の改修工事により本流の中にありますが、標識は近くの土手の上に設置されています。

生涯学習奨励員　吉田　正

生家跡の標識



所在地

３月の主な行事予定

３月10日(日)ふれあい歩け歩け大会（上泉伊勢守コース）

３月14日(木)芳賀公民館運営推進委員会（芳賀公民館）